**議題２の資料２の説明文**

議題２「令和４年度における「ユニバーサル都市・福岡の推進」について」説明します。

まずは、資料１枚目の左上、１．本協議会の設置目的についてです。今年度新しく委員をお引き受けくださった方もおられますので、改めて目的についてご確認させていただきます。本協議会は、みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」の実現を目指し、ユニバーサルデザインの考え方に基づき、誰もが住みやすく、過ごしやすい街づくりの推進を図ることを目的に設置しております。

次に、資料１枚目の左下に、２．成果指標についてです。ユニバーサルデザインの概念の理解度につきまして、令和３年度は５7．5％と昨年度からほぼ横ばい、ユニバーサルデザインへの取組みへの評価につきましては5４．0％と昨年度から約10％の上昇、「ユニバーサル都市・福岡」のロゴマークの認知度は５８．４％と昨年度から約４％の上昇となっております。数値は上昇しておりますが、目標に達していない状況でございますので、引き続き、目標値に向けて取り組んでいくこととしております。

資料１枚目の右側に、参考に令和３年度の市政アンケート調査結果から一部抜粋して載せております。ユニバーサルデザインの言葉の意味を知っていた、と回答した方を、年代別に見ますと、18歳から29歳まで、で最も高い数値の７７．０％となっております。また、福岡市はユニバーサルデザインの取組みが進んでいると回答した方を、年代別に見ますと、18歳から29歳まで、で最も高い数値の７０．３％となっております。この調査結果から、10代から20代までの若い年代の方が、他の世代に比べて、ユニバーサルデザインの認知度は広がっていると考えられます。一方で、30代から40代まで、60代以降の認知度が低いことが課題と考えられることから、各世代に合わせた最適な広報手段で周知を展開する必要があると認識しており、ユニバーサルデザインへの認知度向上につなげていきたいと考えております。

　資料２枚目と３枚目は、財政局の作成した、令和４年度当初予算案の概要から、ユニバーサル都市・福岡に関連する事業一覧を抜粋して掲載しています。その中から、既に動き出している新たな取り組みを資料４枚目の左側に、継続して動いている取組みを右側に、3.主な取組みとして記載しています。

総務企画局の今年度の新規事業としまして、先日プロポーザルで決まった事業者の提案内容として、「４コマ漫画による普及啓発」を行います。これは、関心がない市民にもわかりやすい普及啓発を実施するもので、ユニバーサルデザインに関しての知識が無くても楽しめるものです。11月開始予定です。

次に、こども未来局の⼦ども習い事応援事業です。これは、⼦どもの将来が⽣まれ育った環境に左右されず、個性や能⼒を伸ばし、⾃⼰肯定感を育めるよう、電⼦クーポンを交付し、習い事の費⽤を助成するものです。７⽉に開始しています。

交通局の障がい児(⼩学⽣以下)の地下鉄利⽤が便利になる事業です。交通系ICカード「⼩児はやかけん」の事前登録を⾏い利⽤することで、地下鉄に乗⾞する際に、駅係員への障がい者⼿帳の提⽰や券売機での乗⾞券の購⼊が不要になる取組みを７月に開始しました。

住宅都市局のインクルーシブな遊具広場事業です。あらゆる⼦どもがお互いの違いを理解し合い、⼀緒に遊べる遊具広場（インクルーシブな遊具広場）の整備に向けた検討を実施するもので、舞鶴公園においてR3年度の実証実験をアップデートして、７月３０日から１１月３０日まで実施するものです。遊具５基に加え、周囲の⼈⼯芝、⾒守りスペース等を設置しています。また、検討委員会を開催し、議論を踏まえ、整備指針を１２月に策定予定となっております。

続いて、福祉局及び各区役所でビデオ通話を利⽤したオンライン⼿話通訳を開始しました。聴覚障がいなどで⽇頃の会話を⼿話で⾏っている⽅がビデオ通話（Zoom）を使って、⾃宅から区役所へ問い合わせができる体制を７月に開始したものです。

また、福祉局及び各区役所で、視覚障がいのある⽅へ⾳声コードアプリの利⽤のサポートを８月に開始しました。視覚障がいのある⽅へ、印刷物の内容を⾳声で読み上げるスマホアプリ「ユニボイス」のインストールや使い⽅を、携帯電話事業者４社と連携し、区役所や市役所、市内の携帯ショップで説明・サポートを開始、市ホームページで解説動画も公開しています。

続きまして、昨年度からの継続事業です。「ユニバーサル都市・福岡」のことをより多くの市⺠に知ってもらうために、R3年度、PRサポーターに任命したバリカタキッズが、引き続き、市内のユニバーサルな場所などを取材し、その様⼦を様々な広報媒体で展開する、「ユニバーサル都市・福岡PRサポーター」による普及啓発を本年度も継続して実施します。

また、福祉局における重度障がい者等就労⽀援事業、総務企画局における外国⼈⽀援ボランティアバンク、市民局及び各区役所で実施している「ご遺族サポート窓⼝」、福祉局で開始した遠隔⼿話通訳サービス、「福岡オレンジパートナーズ」と「オレンジ⼈材バンク」、などもけいぞくして実施しています。

次に令和２年度からの継続事業として、本年度も福岡版ユニバーサルマナー検定（講座）の実施しています。また、インスタグラム等を活⽤したユニバーサルデザインに関する情報発信ということで、こちらもプロポーザルで出てきた事業者の提案ですが、ユニバーサルデザインに関⼼がない市⺠に知ってもらうため、誰もが楽しめる、画像が徐々に変化し、変わった箇所を⾒つける間違い探し動画であるアハ動画を作成し発信することとしています。

最後に、以前からの継続事業として、ユニバーサルデザイン(UD)タクシーの導⼊促進、ベンチプロジェクトの推進を行っています。ベンチプロジェクトについては、R4年度は、市管理道路における設置可能なすべてのバス停にベンチを設置する予定です。

　以上が資料２の説明です。